

21年度 第1回障害者雇用支援ネットワーク会議(全体会、施設長会)報告

1 今年度の取り組みについて

就職者の数(22年1月末現在)

就職者数	19年度	20年度	21年度	22年度	25年度
作業所からの就職者数	目標 30 実績 29	目標 35 実績 29	目標 40 実績 14	目標 45	目標 50
事業団	実績 35	実績 40	実績 40	目標 45	目標 45

実務担当者会の報告

2 来年度の取り組みについて

来年度の就労関係予算

3 意見交換 テーマ「就労支援の課題」

ハローワーク新宿

- ・求人数が少なくなっている。就労支援では、働くことへの準備が重要である。最近では、障害者就労のための意識準備をすることも少しずつ増えてきたと思う。ハローワークに来る相談対象者は、精神、難病、在職中の方が増えているように思う。

知的障害者(就労移行支援事業所 多機能型)

- ・就労移行支援利用者の「就労したい」という気持が本人・家族ともに育っていないようである。対応としては、短時間就労から取り組んでいけたよいと考える。就労に近い利用者が、事業所に入って来るよいのだが。
- ・就労に向けたは、小さなステップが必要と感じている。利用者が働くイメージを持つには、実習だけでは少ないように思う。就労支援担当者は、工賃アップに取り組む一方で、就労支援まで手が回らない。対応としては、ワークサポートからの支援を受けながら進め、区全体で情報交換や課題解決を進められればと考える。
- ・就労につながる次の利用者がいないのが現実。就労担当者が就労支援に動くと B 型事業が大変になるという悪循環が見える。B 型事業の利用者をどうやって移行支援事業に上げていくかが課題と考える。

身体障害小規模作業所

- ・ワークサポートと相談することで、利用者が就労の面接に行くようになった。就労支援についてのモデルが作れていない。工賃が上がれば利用者は就労意欲が低くなる現状にある。対応としては、一人ひとりに対応して就職に結び付けていければと考える。

精神障害者共同作業所

- ・分かりやすい就労支援のあり方や、就労定着に向けた支援が欲しい。精神障害者の就労を進めていくには、相談の入口、ワークサポートの役割分担などが課題と感じている。
- ・利用者が就労したいと希望しても、職員が動けない。希望と現実との歯車が合わないことが課題と考える。
- ・職員数の少ない事業所は対応が難しいと感じている。
- ・利用者の中に就労への意欲がある人がいない。
- ・職員3名が忙しく回転しているので、どういう就労支援をすればよいか見えないし、本当に出来るかなと感じている。

実施日: 22年2月22日(月)

#### 実務担当者会で話し合われた主な区全体の課題

- ・ 作業所に籍を置いたまま就職できる短時間就労がもっと進むとよいと思う。
- ・ 施設で就労支援担当をしているが、施設全体が作業を回すことが最優先になってきている。
- ・ 施設から「就職者が出たので欠員あり。」という情報を共有でき、利用希望者に伝えられるとよいと思う。途中で就職者を出すとその後の利用料収入が上がらなくなるので。
- ・ 今後就職者が増えると支援が大変になる。就職者を出せば出すほど施設は大変になる。
- ・ ハローワーク、特別支援学校、福祉事務所、相談支援事業所、ワークサポート杉並などたくさんの社会資源があるためどこに相談に行ってもよいのかわからない場合があると窓口には障害別に専門の相談担当者がいたほうがよいのではないかと思われる。

#### 22年度の方向性

- ・ 雇用支援ネットワークを再編して、上記の課題を検討する会議にしていく。
- ・ 会議で話されたことについては、施設長会で周知する。自立支援協議会に報告し、課題解決に努めていく。